

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 門前保育会
施設名	幼保連携型認定こども園 門前保育園
報告者（役職）	竹花 美奈子（副園長）
住所・連絡先	岩手県久慈市新中の橋 4-11-4
	☎ 0194-52-4340 E-mail Monzenhoikuen@yacht.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

楽しく遊び、丈夫な体づくり

○主な助成備品

システムブロック、カプラ、歯ブラシ保管庫

### 1. 保育計画策定の目的

当園は、昭和 51 年に開園し、平成 31 年幼保連携型認定こども園に移行しました。

園の保育目標は、

- ★丈夫な体の子ども
- ★協調性を持ち、友達を大事にできる子ども
- ★物をはっきり言える子ども
- ★よい、わるいがわかり行動できる子ども
- ★最後まで頑張れる子ども
- ★あいさつのできる子ども

の6つの目標のもと、保育をしています。特に、1点目の『丈夫な体の子ども』に重きをおき保育に当たっています。とは言え、年々体力のない子、運動面での発達のアンバランスな子などが多く見られるようになってきています。また、平成 28 年と令和元年の台風による浸水被害に遭い使えなくなった遊具もあり、楽しく遊びながら、子ども達の運動能力を高め、体幹を鍛えていく事が出来たらと考えました。

### 2. 具体的な実施内容

#### 【システムブロック】

体幹やバランス感覚、身体の動きの基礎的な面を楽しく遊びながら鍛えていく事を念頭に置き、ホールの端の所に並べておき、いつでもすぐ出して遊べるようにしている。

システムブロックの数が多いので、大きいクラスはホールを使い活動したり、小さいクラスは一部をお部屋にもって行き活動したり、と同時に複数のクラスでも活用できていた。

未満児クラスは、年齢を考慮し保育士がブロックを選び遊ばせていた。3歳以上児は、はじめは保育士が設定していたが、子ども達自身が考えてサーキットを作れるようになってきた。

#### 0歳児

0歳児クラスは、歩ける子、ハイハイ、ズリバイの子など動きに幅があるクラスなので、組み合わせを工夫し、どの子ども自分の出来る動きの範囲で遊ぶことを計画した。



また、クッション性に富んでいるのでケガの心配もなく、ダイナミックに遊ばせることが出来た

最初の頃は、高さのない物・シンプルな物を選んでしたが、子どもの発達に合わせ、子どもが登れる傾斜を選んで組み合わせたもので遊んでみると、手を使ってハイハイで登り、滑り降りたり、頂上で向きを変え足から降りる子などそれぞれに楽しんでチャレンジする姿が見られた。



## 1 歳児

障害物のようにシステムブロックを並べコースを作り楽しませてみたが、なかなか遊べず保育者 1 人が一つのコーナーを担当すると遊べるようになった。はじめは怖がる子もいたり、反対に危ない感じの子もいたが、繰り返し活動するうちに子ども達も登り降り覚えたり、くぐったり、手で掴んで回ったり、ユラユラしたり、身体の発達に必要な動きを経験する事ができた。また、とてもきれいな色と様々な形があり、形や色を意識したり覚えられるよう声を掛けた。

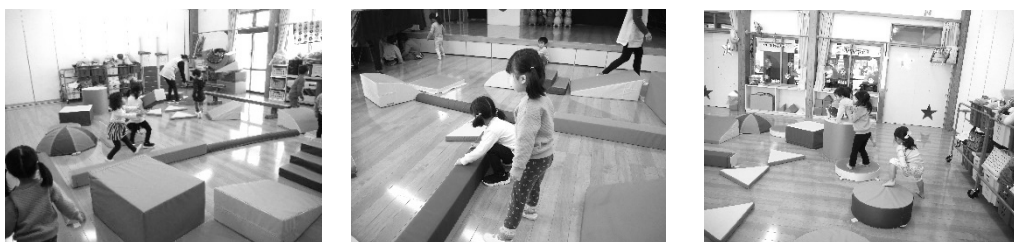
## 2 歳児

最初は、消極的だったので保育者と手を繋いで一緒に取り組んだ。何度か経験するうちに、活発に遊んでいる子を見て『やってみたい』という意欲を持ち友達の姿を真似たり、自分から色々な動きに挑戦したりして体を動かすことを楽しんでいった。『もう一回』『もう一回』と繰り返し楽しむ姿が印象的だった。



## 3 歳児

最初は、保育士がコースを作ってあげると、走って渡ったり、登ったり、ジャンプしたり全身を使い遊ぶ姿が見られた。また、保育室に数個持って行き、小さいコースを作ってあげても喜んで取り組んでいた。年長児とシステムブロックで遊んだ時は、年長児と一緒に挑戦する事をとても喜び、異年齢の交流のアイテムとしても良かった。後半になると最初は怖がっていた高い所からのジャンプも繰り返し補助と声かけにより克服できた子も多い。また、自分たちでコースを作ろうとする姿が見られたり、片付けたりも上手になってきた。



#### 4 歳児

最初は、サーキットを作ることに時間がかかっていたが、何度も、取り組んでいくうちに進んでサーキットを作り、お友達と一緒にブロックを運び、「こうかなあ」「ここにおいたら」と声を掛けながら作れるようになった。また、困った時は保育者に「ジャンプするところを作りたい」と、自分たちの考えも言えるようになった。

『ブロックの下は海ね。落ちたら 30 回数えます。』というルールを決めた。はじめは、落ちたことを認めず、泣いてしまう子もいたが、遊びを通してルールを守る事の大切さや我慢すること、数えればまた遊べるという気持ちの切り替えが出来るようになった。

また、思い切って体を動かし、回ってみたり、揺れてみたり、踏ん張ってみたりという全身の動きができています。

#### 5 歳児

最初から興味津々で、コースを作る過程や片付けまでを含め友達と協力し作業を行う姿が見られた。また、コースを渡る事だけを楽しんでいた子ども達であったが、鬼ごっこ風だったり、ジャンケンを取り入れてみたりと遊びにも工夫する姿が見られた。

後半は、システムブロックのコースをネコになって渡るなど、様々な遊びの発展が見られた一方、やはり動きが大きくなりすぎる傾向があり、挑戦意欲も認めつつ、ある程度、危険な遊びにならないよう配慮した。



#### 【カプラ】

未満児棟に 1 つ、以上児棟に 1 つ置き、クラスで貸し借りしながら年齢に合わせて楽しんでいた。はじめの頃や未満児クラスでは、重ねていく事を楽しんでいたが、大きいクラスの子供達は、付属の見本を見て真似て作ろうとしたり、自分なりに考えて作れるようになってきた。また、絵を描くように平面に並べる子も見られ発想力に驚かされた。

また、大人でも難しい重ね方を上手に出来る子もいた。



#### 【歯ブラシ保管庫】

以前は、各クラスの担任のアイデアで保管していたが、衛生面を考えると不安があり職員間でも話題に上がっていた。購入して頂き安心して歯ブラシを保管することができている。今は、新型コロナウイルス感染予防のため、歯磨きは止めているが、また歯磨きを再開したら利用していく。

### 3. その成果と評価

#### 【システムブロック】

- ・雨天の日や戸外に出られない時など、今までは身体を動かす活動は少なかったが、複数のクラスで時間やブロックを分け、短い時間でも全身運動が出来ようになった。また、運動量は多く、身体全身を使う活動になっている。
- ・新しい遊具が増えたことで興味を持って取り組み、繰り返しチャレンジし、充実した活動を行うことが出来ている。
- ・子ども達が自分の考えを保育士や友達に話し、協力しあいながらコース作りを楽しんだり、片付けも楽しんで出来ている。
- ・最初は高い所からのジャンプを怖がる子もいたが、繰り返し活動することで、自信が付き出来るようになってきた。
- ・体を動かすだけでなく、友達と協力して作ったり、システムブロックから落ちたら数を数え、次チャレンジする意欲を高めたりルールを考えたりと、運動面だけではなく社会性をも育てることができた。
- ・保育士も子どもの年齢・発達段階を再認識し、発達に合わせた内容を選んだり、子ども達の好奇心をよい方向で伸ばそうとする努力も見られている。
- ・システムブロックは、大きくて数も沢山あり色んな組み合わせが可能なため、0歳児～5歳児までの全クラスが年齢に合わせ活用する事が出来た。またシステムブロックの組み合わせを考えることで、成長するうえでとても大切な運動能力を高めることが出来る遊具だと感じた。

#### 【カプラ】

- ・当初は、それぞれで組み立てて遊んでいたりと、壊されてトラブルになることがあったが、みんなで作る楽しさに気づき協力しあったり、意見を出し合ったり、壊さないように慎重になったり、近くに居る子に、『ぶつからないでね』と声をかける姿も見られた。自分たちの身長より高くなっても、もっと高くするにはどうしたら良いか考え、椅子を使って高く積み上げていた。遊びを通して友達との協調性や社会性も培うことができたと思う。

### 4. 今後の課題と展望

- ・今でも自分で考えてコースを作っているが、今後も友達と協力しながら作ったり、創意工夫をしながら遊べるようになることに期待している。
- ・保育者も年齢による運動の発達段階を考慮し、安全面を見守りながら活動をさらに発展させていく事に期待している。また、慣れてくると危険な遊び方になるので、年長児は保育士の見守りの中、子どもたち自身も安全を心がけながら遊べるよう知らせていきたい。
- ・引き続き子ども達が取り組みやすい環境設定を行い持続的に取り組めるようにし、運動機能や体幹を鍛え、できるようになったことを増やしていきたい。今後は0歳から5歳児までの長期的な計画を考え実践していけたら大きな成果が期待できるのではないかなと思う。

最後になりましたが、今回の助成事業のおかげで高価な遊具を揃えることができ、また子ども達もとても喜んで遊んでいます。楽しみながら運動能力を高めていけるよい遊具を頂けたことに心より感謝いたしております。今後も大切に使い、子ども達の心と身体の発達を少しでも促していけたらと思っています。

以上